



まちのわたい

Town Topics



応援のガールスカウトと参加者たち

認知症を知る月間の9月22日、RUN伴いばらき下妻ルートブロックが開催され、認知症の人や家族、支援者など約100人が参加して、砂沼周辺の市道など約10kmをオレンジ色のTシャツのランナーたちが走り認知症への理解を呼び掛けました。

RUN伴いばらきは、認知症に対する理解を深め、認知症の人とその家族を地域で支えあう環境づくりとして県内9ルート、県西ルートでは5市町で開催され、参加者が少しずつリレーしながらタスキをつなぎゴールをめざす茨城版のイベントです。

県西ルートブロック長の宇田川真由美さんは「認知症は特別ではないことを知ってもらい、誰もが安心して暮らせるまちづくりを叶えたい」と話しランナーたちとタスキをつなぎました。

誰もが安心して暮らせるまちを願い RUN伴いばらき 9月22日



啓発グッズを受け取り入場する来場者

高齢者に詐欺・交通事故防止の呼び掛け 交通事故防止啓発活動 9月23日



来日した生徒と神楽を披露した子どもたち

下妻第二高等学校ではクイーンズランド州インスフェイル高校と平成15年から交流しており、今回の来日は平成27年度以来3年ぶり3回目。来日した20人の生徒たちは下妻二高生徒宅にホームステイし、英語・書道の授業への参加や茶道などの伝統的な部活動を体験ました。

9月27日、生徒たちは大宝八幡宮を訪問し、拝殿で宮司から説明を受けながら参拝の作法を体験したほか、巫女装束の子どもたちが舞う「五行の舞」や「八幡の舞」の神楽を観覧しました。スマートフォンで撮影していた生徒は「下妻に来る前に東京を見学したが、日本の伝統文化に触れるのは初めてです」と声を弾ませていました。

豪高校生ら日本文化を体験 オーストラリアの高校生と交流 9月26日～10月1日



下妻産の新米を試食する来場者

香り立つ新米を食べ比べ 下妻産新米まつり 9月22日～23日



9月23日、第47回下妻市敬老福祉大会に来場する高齢者にニセ電話詐欺被害防止の呼び掛けと交通事故防止の啓発活動が行われました。

この啓発活動は、高齢者の交通事故防止に向けた県内一斉強化日に合わせて行われたもので、下妻警察署の協力のもと、市内交通団体等の関係者約30人が市民文化会館に来場する高齢者に交通安全・防犯グッズを手渡しながら、ニセ電話詐欺被害防止と交通事故防止を呼び掛けました。

下妻警察署生活安全課の落合係長は「夕方、高齢者の交通事故が多いので、反射材の着用と早めのライト点灯、また、ニセ電話詐欺には注意してください」と話していました。

伝統の火祭り、荒々しく 大宝八幡宮「タバンカ祭」 9月12日・14日



応援のガールスカウトと参加者たち



白装束姿の若者が炎を持ち境内を走り回る

白装束の若者が畠やたいまつを持って境内を走り回る炎の奇祭「タバンカ祭」が9月12日と14日、大宝八幡宮で執り行われました。

祭りは拝殿での神事の後、白装束の若者が境内で市内外から集まった人たちを追いかけながら炎を舞い散らせていました。

この祭りは、約650年前に敷地内で起きた火災を畠と鍋ぶたで消し止めたという故事を戯曲化した祭りとして受け継がれ、タバンカの名称は、畠や鍋ぶたをたたきつける際の「バタン、バタン」という音が由来になっていると言われています。

千葉県から訪れた53歳の男性は「全国の火祭りを写真におさめている。バタン、バタンと叩きつける音と若者が顔を布で隠す特徴があってよい」と話してくれました。



長寿の秘訣を話す飯田さん

敬老の日にちなみ、高齢者の長寿を祝う「第47回下妻市敬老福祉大会」が9月23日、市民文化会館で開催されました。

式典では県内男性最高齢者の飯田西之助さん(原・108歳)へのお祝いと日常生活などのインタビューがされました。飯田さんは「好き嫌いなく野菜をたくさん食べます。植物栽培が趣味で、育てているランをカメラで撮って鑑賞しています。家族がよくしてくれて幸せの絶頂です」と朗らかに長寿の秘訣を話してくれました。

また、芸能発表では市内の老人クラブや同好会、個人など33組が出場。集まった約400人は、日頃親しんでいる歌や踊りを披露し、鑑賞し合い、ステージ発表に合わせて一緒に歌ったり、シルバー・リハビリ体操で体をゆっくり動かしてリラックスしたり楽しいひとときを過ごしました。

下妻市では、平成30年度中に米寿の88歳を迎える市民が212人、100歳以上は29人となっています。



口上「ガマの油売り」を披露する苅部善吉さん(下栗)

県内最年長男性 長寿の秘訣は

敬老福祉大会 9月23日



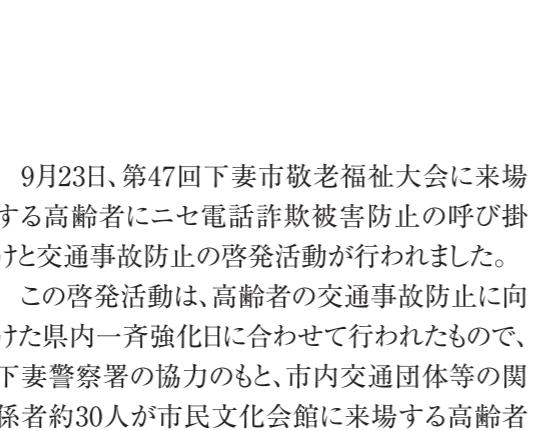
応援のガールスカウトと参加者たち

認知症を知る月間の9月22日、RUN伴いばらき下妻ルートブロックが開催され、認知症の人や家族、支援者など約100人が参加して、砂沼周辺の市道など約10kmをオレンジ色のTシャツのランナーたちが走り認知症への理解を呼び掛けました。

RUN伴いばらきは、認知症に対する理解を深め、認知症の人とその家族を地域で支えあう環境づくりとして県内9ルート、県西ルートでは5市町で開催され、参加者が少しずつリレーしながらタスキをつなぎゴールをめざす茨城版のイベントです。

県西ルートブロック長の宇田川真由美さんは「認知症は特別ではないことを知ってもらい、誰もが安心して暮らせるまちづくりを叶えたい」と話しランナーたちとタスキをつなぎました。

誰もが安心して暮らせるまちを願い RUN伴いばらき 9月22日



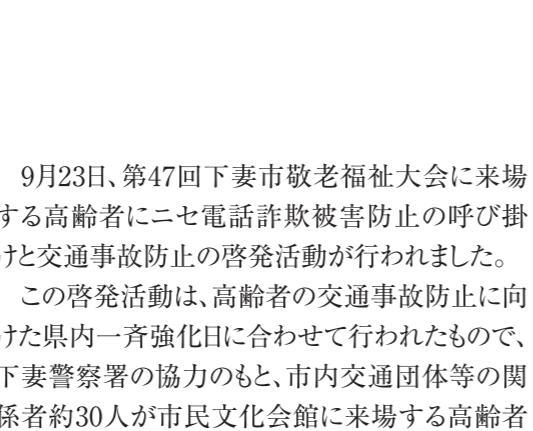
応援のガールスカウトと参加者たち

認知症を知る月間の9月22日、RUN伴いばらき下妻ルートブロックが開催され、認知症の人や家族、支援者など約100人が参加して、砂沼周辺の市道など約10kmをオレンジ色のTシャツのランナーたちが走り認知症への理解を呼び掛けました。

RUN伴いばらきは、認知症に対する理解を深め、認知症の人とその家族を地域で支えあう環境づくりとして県内9ルート、県西ルートでは5市町で開催され、参加者が少しずつリレーしながらタスキをつなぎゴールをめざす茨城版のイベントです。

県西ルートブロック長の宇田川真由美さんは「認知症は特別ではないことを知ってもらい、誰もが安心して暮らせるまちづくりを叶えたい」と話しランナーたちとタスキをつなぎました。

誰もが安心して暮らせるまちを願い RUN伴いばらき 9月22日



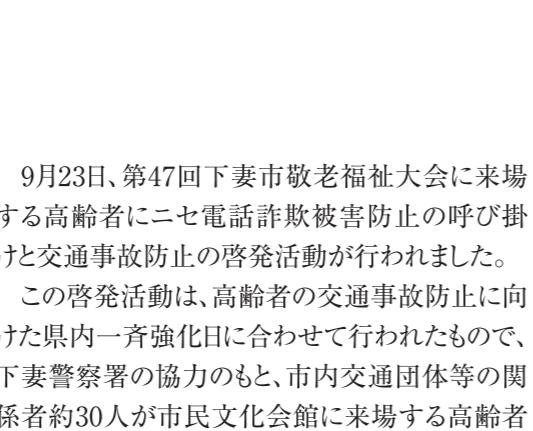
応援のガールスカウトと参加者たち

認知症を知る月間の9月22日、RUN伴いばらき下妻ルートブロックが開催され、認知症の人や家族、支援者など約100人が参加して、砂沼周辺の市道など約10kmをオレンジ色のTシャツのランナーたちが走り認知症への理解を呼び掛けました。

RUN伴いばらきは、認知症に対する理解を深め、認知症の人とその家族を地域で支えあう環境づくりとして県内9ルート、県西ルートでは5市町で開催され、参加者が少しずつリレーしながらタスキをつなぎゴールをめざす茨城版のイベントです。

県西ルートブロック長の宇田川真由美さんは「認知症は特別ではないことを知ってもらい、誰もが安心して暮らせるまちづくりを叶えたい」と話しランナーたちとタスキをつなぎました。

誰もが安心して暮らせるまちを願い RUN伴いばらき 9月22日



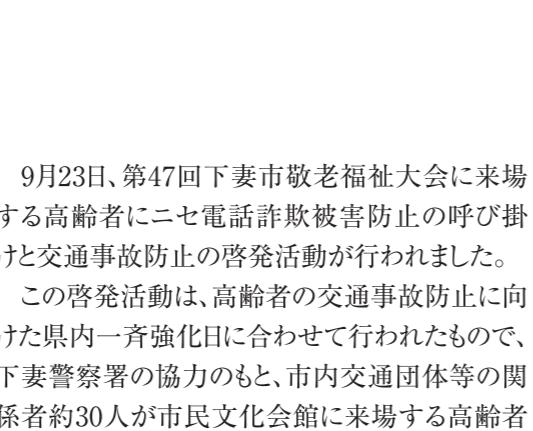
応援のガールスカウトと参加者たち

認知症を知る月間の9月22日、RUN伴いばらき下妻ルートブロックが開催され、認知症の人や家族、支援者など約100人が参加して、砂沼周辺の市道など約10kmをオレンジ色のTシャツのランナーたちが走り認知症への理解を呼び掛けました。

RUN伴いばらきは、認知症に対する理解を深め、認知症の人とその家族を地域で支えあう環境づくりとして県内9ルート、県西ルートでは5市町で開催され、参加者が少しずつリレーしながらタスキをつなぎゴールをめざす茨城版のイベントです。

県西ルートブロック長の宇田川真由美さんは「認知症は特別ではないことを知ってもらい、誰もが安心して暮らせるまちづくりを叶えたい」と話しランナーたちとタスキをつなぎました。

誰もが安心して暮らせるまちを願い RUN伴いばらき 9月22日



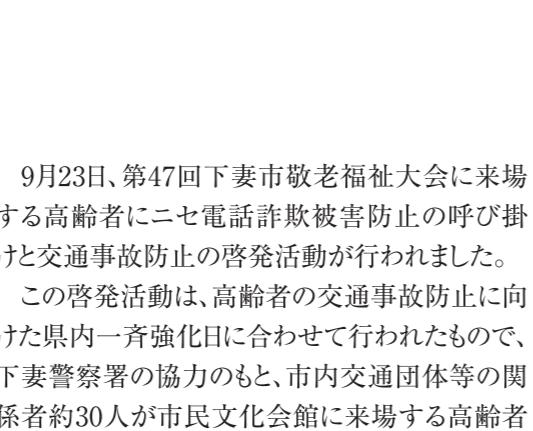
応援のガールスカウトと参加者たち

認知症を知る月間の9月22日、RUN伴いばらき下妻ルートブロックが開催され、認知症の人や家族、支援者など約100人が参加して、砂沼周辺の市道など約10kmをオレンジ色のTシャツのランナーたちが走り認知症への理解を呼び掛けました。

RUN伴いばらきは、認知症に対する理解を深め、認知症の人とその家族を地域で支えあう環境づくりとして県内9ルート、県西ルートでは5市町で開催され、参加者が少しずつリレーしながらタスキをつなぎゴールをめざす茨城版のイベントです。

県西ルートブロック長の宇田川真由美さんは「認知症は特別ではないことを知ってもらい、誰もが安心して暮らせるまちづくりを叶えたい」と話しランナーたちとタスキをつなぎました。

誰もが安心して暮らせるまちを願い RUN伴いばらき 9月22日



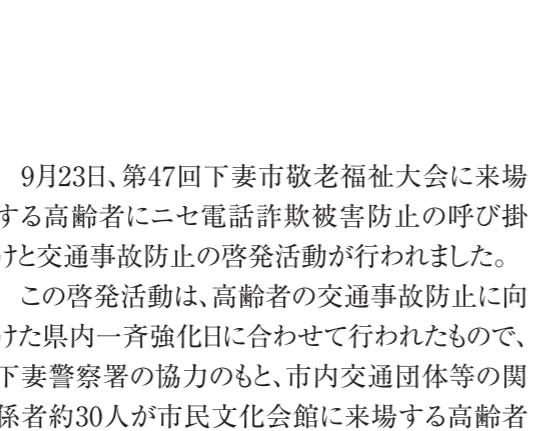
応援のガールスカウトと参加者たち

認知症を知る月間の9月22日、RUN伴いばらき下妻ルートブロックが開催され、認知症の人や家族、支援者など約100人が参加して、砂沼周辺の市道など約10kmをオレンジ色のTシャツのランナーたちが走り認知症への理解を呼び掛けました。

RUN伴いばらきは、認知症に対する理解を深め、認知症の人とその家族を地域で支えあう環境づくりとして県内9ルート、県西ルートでは5市町で開催され、参加者が少しずつリレーしながらタスキをつなぎゴールをめざす茨城版のイベントです。

県西ルートブロック長の宇田川真由美さんは「認知症は特別ではないことを知ってもらい、誰もが安心して暮らせるまちづくりを叶えたい」と話しランナーたちとタスキをつなぎました。

誰もが安心して暮らせるまちを願い RUN伴いばらき 9月22日



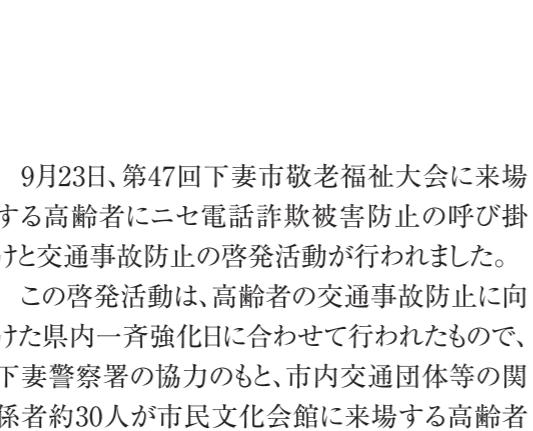
応援のガールスカウトと参加者たち

認知症を知る月間の9月22日、RUN伴いばらき下妻ルートブロックが開催され、認知症の人や家族、支援者など約100人が参加して、砂沼周辺の市道など約10kmをオレンジ色のTシャツのランナーたちが走り認知症への理解を呼び掛けました。

RUN伴いばらきは、認知症に対する理解を深め、認知症の人とその家族を地域で支えあう環境づくりとして県内9ルート、県西ルートでは5市町で開催され、参加者が少しずつリレーしながらタスキをつなぎゴールをめざす茨城版のイベントです。

県西ルートブロック長の宇田川真由美さんは「認知症は特別ではないことを知ってもらい、誰もが安心して暮らせるまちづくりを叶えたい」と話しランナーたちとタスキをつなぎました。

誰もが安心して暮らせるまちを願い RUN伴いばらき 9月22日



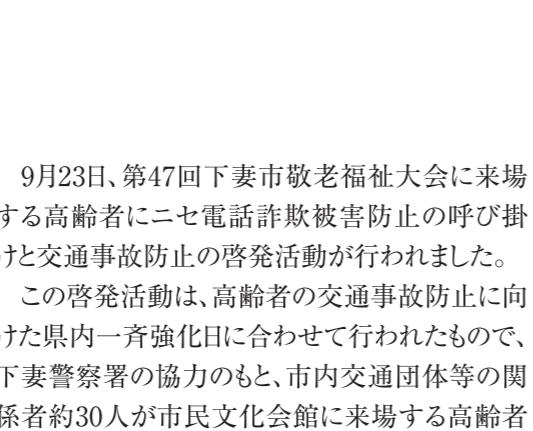
応援のガールスカウトと参加者たち

認知症を知る月間の9月22日、RUN伴いばらき下妻ルートブロックが開催され、認知症の人や家族、支援者など約100人が参加して、砂沼周辺の市道など約10kmをオレンジ色のTシャツのランナーたちが走り認知症への理解を呼び掛けました。

RUN伴いばらきは、認知症に対する理解を深め、認知症の人とその家族を地域で支えあう環境づくりとして県内9ルート、県西ルートでは5市町で開催され、参加者が少しずつリレーしながらタスキをつなぎゴールをめざす茨城版のイベントです。

県西ルートブロック長の宇田川真由美さんは「認知症は特別ではないことを知ってもらい、誰もが安心して暮らせるまちづくりを叶えたい」と話しランナーたちとタスキをつなぎました。

誰もが安心して暮らせるまちを願い RUN伴いばらき 9月22日



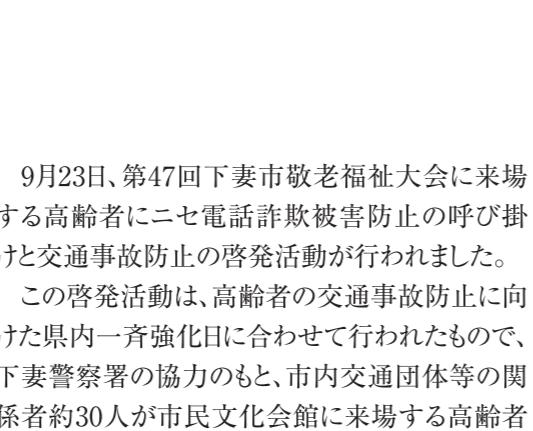
応援のガールスカウトと参加者たち

認知症を知る月間の9月22日、RUN伴いばらき下妻ルートブロックが開催され、認知症の人や家族、支援者など約100人が参加して、砂沼周辺の市道など約10kmをオレンジ色のTシャツのランナーたちが走り認知症への理解を呼び掛けました。

RUN伴いばらきは、認知症に対する理解を深め、認知症の人とその家族を地域で支えあう環境づくりとして県内9ルート、県西ルートでは5市町で開催され、参加者が少しずつリレーしながらタスキをつなぎゴールをめざす茨城版のイベントです。

県西ルートブロック長の宇田川真由美さんは「認知症は特別ではないことを知ってもらい、誰もが安心して暮らせるまちづくりを叶えたい」と話しランナーたちとタスキをつなぎました。

誰もが安心して暮らせるまちを願い RUN伴いばらき 9月22日



応援のガールスカウトと参加者たち

認知症を知る月間の9月22日、RUN伴いばらき下妻ルートブロックが開催され、認知症の人や家族、支援者など約100人が参加して、砂沼周辺の市道など約10kmをオレンジ色のTシャツのランナーたちが走り認知症への理解を呼び掛けました。

RUN伴いばらきは、認知症に対する理解を深め、認知症の人とその家族を地域で支えあう環境づくりとして県内9ルート、県西ルートでは5市町で開催され、参加者が少しずつリレーしながらタスキをつなぎゴールをめざす茨城版のイベントです。

県西ルートブロック長の宇田川真由美さんは「認知症は特別ではないことを知ってもらい、誰もが安心して暮らせるまちづくりを叶えたい」と話しランナーたちとタスキをつなぎました。

誰もが安心して暮らせるまちを願い RUN伴いばらき 9月22日</